

## Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



新年度第一回目のオルガン通信です。熊本・大分及び九州地方での地震被害に心を痛めていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。被害に遭われた方、今もなお不自由な環境にいらっしゃる方々に心よりお見舞い申し上げます。桜満開の四月を終え、新緑の美しい季節の到来ですね。満開の桜もよいですが、木々が嬉しそうに芽を吹き出すこの時期が大好きです。所沢ミュージズにいらした際にはぜひ航空公園にも一歩足を伸ばして、森林浴はいかがでしょう！

### 🍏 6月はオルガン公演が目白押し！世界のトン・コープマン氏の熱演が聴ける！

来月はなんと、オルガン公演が2回も開催されます。豪華なラインナップはこちら↓

**6月3日（金）石丸由佳 500円オルガン・コンサート！**

**6月26日（日）トン・コープマン オルガンリサイタル！**



日本のオルガニストの中でも人気実力ともに若手ナンバーワンの呼び声高き石丸由佳さん、そして世界的に有名な古楽界の巨匠トン・コープマンの豪華ラインナップです！今回のオルガン通信では、500円コンサートの魅力を、そして次回6月15日発行のオルガン通信ではトン・コープマンのリサイタルの聴き所を詳しくたっぷりとお届けしたいと思います。

### 🍏 6月3日の500円オルガン・コンサートの奏者、石丸由佳さんのご紹介🍏



今年度第1回目となる500円オルガンコンサートでお迎えするのは、2010年にオルガン界最高峰のシャルトル国際オルガンコンクールでグランプリを獲得され、国際的なキャリアを持つ、日本が誇る新進気鋭の若手オルガニストの一人、石丸由佳さんです。石丸さんと私は東京芸術大学のオルガン科で同じ頃に切磋琢磨していた良き仲間です。2年後輩にあたりますが、一学年に3人程のオルガン科は学生同士も仲が良く、学年の垣根を超えて共に学んでいました。もう10年以上も前になりますが、学生時代はオルガンの見学旅行に出掛けたり、レンタカーで熱海へ温泉旅行に行った事もあったのですよ！東京芸術大学院を卒業後はデンマークやドイツなどで研鑽を積み、シャルトルの国際コンクール優勝を皮切りに世界中での演奏活動をスタートされました。新潟市の《りゅーとぴあ》というホールでオルガンに出会い、《横浜みなとみらいホール》のホールオルガニスト・インターンシップも経験された彼女は、コンサートホールにルーツをもつ日本のオルガニスト新世代の代表ともいましょう。豊かな音楽性、覇気のある鮮やかな演奏からは想像できないような穏やかな性格の持ち主の石丸由佳さん。オルガンファンのみならず、そして今までオルガンを聴いた事の無い方まで200%お勧めの音楽家です。所沢ミュージズが誇るオルガンの調べに、ぜひ耳を傾けにいらして下さい。

**6月3日（金）11時開演：0歳児から入場可能のお子様向けコンサート**

**14時30分開演：オルガン作品をお楽しみ頂ける1時間のプログラムによるコンサート**

どちらの回も、沢山のお客様のご来場をお待ちしています♪

### 🍏 パリ・オルガンぶらり旅⑦ 18区、モンマルトルの丘からパリを見下ろしているオルガン！

久しぶりのオルガンぶらり旅です。過去2回にわたってパリのコンサートホールに新設されたオルガンをご紹介してきましたが、今回はパリの観光名所「モンマルトルの丘」に聳え立つサクレ・クール寺院Basilique du Sacré cœur のオルガンです！映画【アメリ】の撮影場所としても一躍有名になったモンマルトルの丘。近年は観光地化が目立ちますが、一歩路地へ入るとそこにはロートレック、ユトリ口、サティなど、20世紀初頭ベル・エポックのパリに台頭した芸術家達の息吹を感じる趣深い街並が顔を出します。かつてはパリ市の外側に区分され、農地であった当時の名残を感じさせるぶどう畑と風車、歓楽街のムーラン・ルージュなど、独特の雰囲気を持つこの界限。私もパリ留学中に、丘から眺めるパリの街並が見たくてついついふらりと、また特別な時にも訪れていた思い出の場所です。今回はそんなパリのランドマーク的存在「モンマルトルの丘」からひっそりとパリを眺望しているオルガンをご紹介しましょう！



## モンマルトルの丘のサクレ・クール寺院とは

⇒⇒⇒モンマルトルMontmartreの「モンMont」は、「山」を指すだけあって登るのもひと苦労（もちろん写真右上のようなケーブルカーもあります）。密かに息を切らしながら石段を登ると、ドーム形の異質な塔を持つサクレ・クール寺院（写真左）が迎えてくれます。その昔「殉教者の丘」として知られたモンマルトルの丘の上には修道院があり、修道女達がぶどう畑でワインを造っていました。その修道院の場所に19世紀半ばに建てられたのがこのサクレ・クール寺院。1876年着工、1919年完成と意外にもその歴史は浅く、1870年の普仏戦争の敗北による混乱の中、1871年に樹立した革命政府「パリ・コミュン」下で蜂起し、犠牲となった市民を弔うために建てられたものです。「サクレ（聖なる）・クール（御心）」と名付けられたこの聖堂は、キリストに捧げられ、守護として祀っている事を意味します。



## オルガンINFO

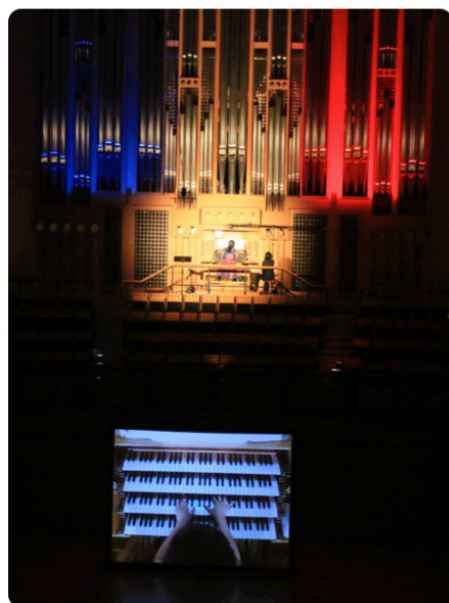
この白亜の聖堂の中に入ると、明るくカラフルな壁面装飾が目を引きまします。振り返ると、2階バルコニーにオルガンがあり、この楽器は1898年にフランスのオルガン製作の名匠アリスティド・カヴァイエ=コルによって製作された最後の楽器と言われています。4段鍵盤とペダル鍵盤、そして78の音色をもち、当時のメカニックと演奏台が現存する希有な楽器です。窮屈な格好でバルコニーに収まっている印象があるのですが、それもそのはず！実はある貴族の館に設置されたものを移設したからなのです。

無類のオルガン好きで、オルガニストでもあったエスペ男爵baron de l'Espée(1852-1918)はフランス南西部に巨大なお城を構えていました。そこに、当時最も優れたオルガンを設置しようと、楽器製作



をカヴァイエ=コルに依頼します。しかしその費用はあまりに高く、一旦は設置したものの、数年後にはお城ごと手放すことに…。その楽器をカヴァイエ=コルの後継者ミュタン・カヴァイエ=コルが買い取り、1913年にモンマルトルのサクレ・クール寺院に新たなオルガンケースを作って移設したという訳なのです。パリには何百年という歴史をもつオルガンが多くありますが、この楽器は、なかなかユニークな経緯をもっていますね！このエスペ男爵のオルガン逸話は、まだ他にも、、、まるで童話に出て来そうなこの男爵のお話はまたいつか特集しましょう。みなさま、パリにお越しの際はモンマルトルの丘へピクニック、そしてこの数奇な運命を辿ったサクレ・クール寺院のオルガンを見にいらしてはいかがでしょうか？

## 🍏 3月5日のオルガンリサイタル、3月26日オルガンスクール発表会の公演後記♪



3月5日(土)には私、梅干野安未によるリサイタル『**パリの作曲家たち～バッハへの眼差し～**』が開催されました。いらして下さった沢山のお客様のあたたかい拍手に支えられ、盛会のもとリサイタルを終える事ができました。演奏の合間にスクリーンに資料を映し出してお話を挟みつつ、フルート奏者の高木綾子さんをゲストにお迎えして、2時間半にわたる長時間のプログラムとなりましたが、「フランスとバッハの関係がとても良くわかった」「オルガンとフルートの響きは初めてだったが、素晴らしかった」など、沢山の嬉しいお言葉を頂きました。テーマのフランスを意識して、後半はオルガンのパイプがフランス国旗のトリコロール（青・白・赤）にライトアップされる一幕も！今回共演して頂き、素晴らしい演奏で会場を魅了された高木綾子さんをはじめ、公演を迎えるにあたってご尽力下さったスタッフの皆様、そしてなによりご来場頂いた聴衆の皆様に心より御礼申し上げます。

そして3月26日には**オルガンスクールの生徒発表会**が行われ、今年も初級10名、上級5名の皆さんが渾身の演奏を披露して下さいました。私が初級クラスを受け持つのも今年で2年目。今年も昨年に劣らず個性豊かな、熱意溢れる方々に恵まれました。発表会では私は隣で皆さんの譜めくりなどをしながら聴くのですが、それぞれの努力と成果を感じ、心打たれる演奏を特等席で堪能しました。松居直美先生がご指導なさった上級の皆さんはさすが3年間の集大成、オルガンへの愛情がひしひしと伝わってくるような情熱溢れる演奏でした。

演奏された生徒のみなさんに、心からの Bravo をお贈り致します♪